

学校名	新座市立石神小学校
実施日	令和4年1月18日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、何ができるといかに児童と共有し、達成感を感じられる授業を行っている。	B	授業改善に向けての取り組み方に見通しがもてたかもてないかで、取組に差が出てきている。単元の目標と活動にずれがある授業も散見されるので、目標達成のための授業となるよう、引き続き目指す授業像に沿って、全教職員で共通理解を図りながら取り組んでいく。	B	ファシリテーターとしての役割を果たし、児童に対して称賛の声掛け、肯定的な評価を大切にしている育成を心掛けている姿勢が見受けられる。学習環境に配慮しながら、小学生らしく、明るく元気に学ぶために、より質の高い取り組みを行い、研究課題として、わかりやすく、児童生徒が興味をそそる授業展開となっており評価できる。学年に応じて、学習指導方法の工夫、授業進行の計画を図り、わかる授業、知る授業、考える授業を目標に、学校研究課題として取り組んでいただくとありがたい。
2	持続可能な社会づくりのため、地域や企業等と連携し、安心安全やいのちを守る授業など、社会情勢をふまえた児童の体験活動を充実させている。	B	2学期当初まで、社会情勢により難しかったが、10月以降、どの学年も社会情勢をふまえたオンライン社会科見学や出前授業、校外での体験活動ができた。地域や企業との連携も進んでいる。新たな交流先を模索し、コロナ禍でも学びを止めないよう努力していく。	A	社会情勢を考慮しながらオンラインでの体験学習を継続的に実行するなど、学習意欲の向上に努力している。石神小の学校教育目標 ①学び合い＝自ら学ぶ意欲あふれる子ども②心豊かに＝やさしさと思いやりのあふれる子ども③たくましく＝自ら体をきたえようとする子ども学校教育目標を基盤に、一人ひとりの成長を見つめて、個々人の無理のない状態で地域とつながる活動に取組みSDGsを意識して児童の体験学習の充実を進めている。
3	学校は、ICTを積極的に活用し、技能向上に努めている。	A	9月のOMO分散登校でオンライン授業を実施し、教職員も児童も技能が大幅に向上した。全学年オンライン授業を継続する等、取組を進めている。学習の目的を明確にし、効果的な場面で積極的に活用していく。	A	学校と家庭が相互に協力して、児童の学習環境及び生活環境を整備し落ち着いた空間を確保することが大切である。家庭での学習によって、基礎学力の定着を図るため、各学年の発達段階に応じて、わかる授業に加えて興味の持てる授業の展開を進めている。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	安全部や生徒指導委員会など、分担を細分化してそれぞれの役割を果たせるようにしたが、十分機能していない場面も見受けられる。次年度に向けSDGsによる分掌組織改善を行い、主体的な運営を促していく。	B	教職員には異動があるが、どこの学校でも、どこの場所であっても、教師としてのあるべき教師像を目指し、組織力の向上と責任体制の整備に努めて、教育現場で幅広く活躍できる人材育成への取り組みは、評価に値する。組織的業務運営の前提は、児童の育成に関する目標が同一方向に向かっていく必要があると考える。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	教育課程を常に見直しながら改善している。学校評価は計画どおり進めている。ムーンショット型による目標達成をめざす。	B	目標達成に向けて立ち向かう気力・努力を鼓舞する・支援する補助者としての教師のあり方が重要と考えられる。学校経営においては「経営と評価の一体化」が求められる。学校経営と学校評価が一体化するように、工夫・改善されることを期待する。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できる。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	マニュアルは作成しているが活用できていない。来年度に向け、改訂を計画中である。危機管理意識を醸成し、主体的に取り組めるように体制の整備に努める。	B	地域の自主防犯・防災組織と常に情報交換・共同行動による具体的な活動の積み重ねが重要であり、その態勢づくりに努力している。引き続き、いざという時に全職員が迅速に動けるよう訓練したり、マニュアルの内容を「学校の今」に即して改善したりすることを進めていただきたい。地震や自然災害、不審者などの想定外の事故や災害に備えて、危機管理マニュアル等を再点検するなどして、迅速に対応できる体制整備が望まれる。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	方向性を理解し、推進している。板書は共通理解が図れていると感じる。発言の仕方、聞く姿勢、学習道具の扱いなど、学級間で微妙な違いがあるので、徹底していく必要がある。本に必要なルールを共通徹底していくための精査を進め、実践を行っていく。	B	どこからならできるか、何からなら始められるかを考えて、「ひとり一人」の児童生徒が、貴重な時間を学校で過ごし、質の高い授業に数多く触れるように授業が展開される必要がある。義務教育のスタートラインに立って、豊かな心で穏やかに成長していく授業展開に期待したい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	言語活動の設定の仕方の理解が不十分で、講義型も見られるが、単元構成を行うことができるようになった。タブレットの導入により表現の幅が広がった。コロナ禍において話し合いなどの言語活動をどのように充実させていくか検討していく。	A	コロナ禍でどのように言語活動を充実させていくか、引き続き学校全体で考えていただきたい。各学年に応じて、一步一步の歩み時間を大切にしながら、思考力、判断力、表現力を育み、授業の中に驚きの発見があり、授業内容が魅力的であり、授業展開の中に創意工夫があり、各学年とも学習意欲への高まりのある、充実した授業が行われている。

9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	個別最適化が図れるように、教師主導型、講義型の授業を脱却し、ファシリテーターとして児童を支援する授業を広げていきたい。今後も系統性を意識した校内研修に取り組むことで、カリキュラムマネジメントを行っていく。	B	文部科学省や県・市の方針に従って、言語活動を重視した中で充実した授業活動を展開し、各事項について丁寧に取り組んでおり評価できる。今後学校の重点課題として授業改善を取り上げ、学校をあげて授業改善に取り組んでいただきたい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努め	B	夏休みには職員研修を実施した。外国語としての授業改善がみられ、オンラインでも外国語の授業したり、総合的な学習の時間等でSDGsへの理解を深めたりと、グローバル化に対応する児童を育成するために努力している。ALTの活用や英語への興味関心の持たせ方など、研修を積み重ねていく。	A	英会話の授業は、子どもたち一人一人が、とてもいきいきと楽しんでいる。日常生活の中でも英会話が重視されている事から、英会話の意識を高める授業、わかりやすい英語授業の取組に期待できる。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	挨拶を生徒指導重点目標にしているが、指導が不十分で目標を達成できていない。教員が積極的に挨拶をしたり、返事をしてから発表させたり、発表の最後に「です」「ます」をつけるよう指導をしたりするなど、継続して全教職員で取り組んでいくよう組織的な実践を行う。	B	地域による朝の声掛け運動時は明るく返事を返す児童が増えてきている。先生、生徒、保護者、地域の人、皆が笑顔で明るく元気にあいさつする言葉を交わす姿が見られる。先生方のあいさつ等の指導も必要だと思う。子供達は目標に向け頑張っているので継続してほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	お互いの良さを認め合えるような学級経営、いじめアンケートの聞き取りやトラブル対応など、クラスによって意識に差がある。アンケートが形骸化しないよう、結果を複数の目で確認し、児童の聞き取りをしっかりと行う体制づくりが必要である。教師のアンテナを高くし、見取りを継続していく。	B	アンケートは形骸化するものとの前提に立つ必要がある。むしろ授業中・休み時間・給食時間での日常的な会話・行動・触れ合いの中にその芽があるか・ないかを感じ取れる教師の感受性・洞察力が必要である。お互いが認め合えるよう道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導しており落着いて学校生活を送れるよう環境整備に力を入れており評価できる。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	倫理確立委員会を定期的に開き啓発している。服装や児童への対応の仕方など、児童・保護者の目で見えた、教師としての自分の姿を意識するよう指導している。一人一人規範意識が高まるような共通理解、共通行動を具現化していく。	B	教師自らが手本となることはもちろんのこと、児童に対して規律意識を高める指導(日々の生活や授業をとおして)を積極的に行っていたいただきたい。成長曲線の向上する大切な時期にある児童が、場に応じた言葉づかい、適正な行動の大切さを知り、規範意識の必要性を高めていただけると有難い。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	コロナ禍でも外遊びを可能な範囲で行えるよう、校庭使用を提示し、場所によってすることのできる運動を定めるなど、体育主任を中心に試行錯誤しながら取り組んでいる。しかし、例年に比べて積極的な取り組みはできていない。室内でも体力向上に向けて取り組めることを考えて、取り組んでいきたい。	A	コロナ禍での制約がある中で、運動会が実施された。様々なイベントが中止される中で、実施されたことは極めて意義深い。体力の維持向上は、健康的な生活を支え、学習意欲を維持する源ともなるので、体力の維持向上に向けて学習指導を一步一步着実に積み重ねていただけると有り難い。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	学校農園での野菜作り、総合的な学習の時間で、SDGsの視点から食品ロスについて取り上げるなど推進している。学年の系統性を考えながら実施していきたい。計画、立案、推進をどのように行っていくか、検討していく。	A	学校の周りには畑がたくさんあり季節によってさまざまな野菜ができていく風景の中で通学している。栄養バランスとれた食事を心がけ、食育への意識を「学校も」「保護者も」「家庭も」「地域も」「本人も」高めて食育による健康意識を高めて行っていただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	学校で取り組むべき要望や意見は、迅速かつ適切に対応している。保護者からの相談や意見については真摯に対応しているが、度を越える要求もある。保護者の期待にすべて答えることはできないが、職員間で差が出ないよう共通理解を図っていく。	A	地域の自主防犯・防災組織と連携し、定期的に情報交換を行っている。コロナ禍でなければ、いつでも合同での行動・訓練を実施できる状態にある。「度を越える要求」の「度」については、学校として(個人の感覚や判断によるのではなく)、冷静に線引きをしていただく必要があると思う。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	学校の活動などを写真付きでホームページに更新している(12月7日現在アクセス件数約36000件)。学年だよりには学級の様子を掲載し情報提供に努めている。情報提供により校務が圧迫されないように、今後も適切な情報提供の改善を行っていく。	A	学校のホームページでは児童の活動状況等の写真が豊富で、活発な姿が映し出されている。また、学校だよりは毎月発行され地域に閲覧されている。地域では学校での情報を共有することにより、ともに子供たちを育てているという意識が醸成されている。コミュニティスクールとしても認識も深まり、学校と地域との距離が近まり信頼関係は評価に値する。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	社会情勢を鑑み、積極的に活動を推進している。PTAや応援団に積極的に関わっている方は意識が高く、支えていただいている。今後も管理職を中心に学校応援団や地域との連携を図りながら実施していく。	B	学校、保護者、地域がよく連携・協力して教育活動に取り組まれています。学校、生徒、保護者、地域住民が、協力・協働・連携して、良好な連携関係が築かれており「コミュニティスクール」として期待される。